

広域避難計画住民説明会におけるご意見等について

●説明会におけるご意見等

No.	カテゴリ	ご質問・ご意見等	説明会での回答
1	説明会	本日の説明資料は文字が多くわかりづらい。イラストやスライドを使ったシミュレーション映像を活用するなどして、わかりやすく説明してほしい。	頂いたご意見を踏まえ、理解しやすい説明内容を考えていきたい。これで終わりでなく、今後わかりやすい説明が行えるよう検討を進めていく。
2	説明会	重要な避難計画の説明会であるにも関わらず参加者が少ない。全住民への周知徹底が図られていないのではないかと。	今回の説明会については銚田市の広報誌や地区回覧、HP等で広く周知を図ったが、結果として少数の参加者となった。今回の説明会は小学校区単位で開催しているが、今後はさらに細かい地区単位での開催が必要とのことになれば、そうした対応も一案と考えている。
3	説明会	住民説明会の開催時間について、旭地区の説明会は夕方に参加するのがキツかった。住民の事を考えてもらって日中の方がありがたかったが、夕方にした理由を聞きたい。	説明会の時間に関しては、お勤めをされている方や農家の方にも来ていただけるように時間を設定した。平日の18時半からなので今の時期を考えると問題ないと考える。平日来れない方は、休日で開催することで参加できるように計画した。
4	説明会	可能な範囲でこれまでの説明会で出された質問について教えて欲しい。	これまでの説明会での質疑についてはまだまとめられていないが、例えば、今後の課題についての質問があった。課題については銚田市だけで解決できないことも多い。県等と協力して解決していきたいと説明をした。また、シミュレーションを実施してほしいとの話もあった。これも市単独では難しいところがあるので県に要望していきたいと説明をした。あとは、今回の説明会は小学校区単位で実施してきたが、もう少し細かな単位で実施してほしいとの要望などもあった。
5	説明会	今回、広域避難計画の概要について初めて説明を受けた。こうした説明会についてはもっとたくさん開催してほしい。また、今回の説明会の様子を録画し、地区の公民館で放映してほしい。	地区の公民館での対応については、今回の説明会は初めての取り組みであり、頂いた意見を踏まえて、住民により深く避難計画を理解してもらうにはどうすべきかを考えながら、さらに細かい地区での説明会の実施などを検討していきたい。
6	説明会	東海村では避難についての意見交換会を実施している。公開されている資料を見るとお膝下だけあって鋭い意見が出ており、それらについてすべて回答がされている。市としても見てほしい。その中には、東海村でバスが300台必要とか風向きも考慮すべきという話も出ていた。	東海村の取り組みについては参考にしていきたいと考える。
7	計画	避難計画を策定し避難方法や避難経路を想定しても、実際の避難となれば想定外の事態が起こるもの。そうした想定外の事態でも適切に避難行動を行えるよう予行練習が重要と考えているが、銚田市としてどのように考えているのか。	いろいろな角度から繰り返し訓練を行い、実効性を高めていくことが必要と考えている。
8	計画	東日本大震災における福島県での避難の状況や課題を示しながら避難計画を考えるべき。	東日本大震災における福島県での避難状況は報道にあったことを知っている程度。しかし、福島事故を教訓に、事故時における住民の不要な被ばくを低減するとの観点から、PAZやUPZの考え方が国の指針等に反映された。できる限り混乱を避け無駄な被ばくを避ける国の考えに準じていきたい。

No.	カテゴリ	ご質問・ご意見等	説明会での回答
9	計画	避難計画についてはいろいろな対策を練っているようだが、気流や風向きが考慮されていない。福島事故では、気流に乗って30kmより広い地域に放射性物質が飛散した。「30km圏外における計画」、「気流を考慮した計画」の検討をお願いしたい。過去10年ほどのデータを集計し、そこからどの方向に風が吹くかといった観点で検討してはどうかと思う。	今回の説明会では、PAZ及びUPZの住民避難について説明したが、国の原子力災害対策指針では、UPZ圏外であっても、必要に応じて屋内退避等の防護措置を行う場合がある旨記載されている。放出された放射性物質が気流によりどのように飛散するかは正確に予測できないが、UPZ圏外であっても、必要に応じて、UPZ圏内と同様の対策がとられるものと考えている。
10	避難	一覧表に避難者数が記載してあるが、この数字の中には技能実習生等の外国人は含まれているのか。	この一覧表の数字は、平成27年度に実施した国勢調査に基づくものなので外国人の数も含まれている。
11	避難	避難の範囲について30km圏内とあるが、本当に30kmで大丈夫なのか。	UPZの30kmというのは原子力災害対策指針で定められているもの。それに基づき避難計画を策定するもの。ただし、対象地区外でもモニタリングを行いながら対応する場合があると考え。
12	情報伝達	自宅付近に防災行政無線の放送塔があるが、風等により音声聞き取れないことが多いため困っている。	銚田市では屋外の放送塔が機能しない場合の備えとして、屋内での戸別受信機や防災ラジオの整備をしている。市役所等に申請すればお渡しできるので是非ご活用頂きたい。また、テレホンサービスや登録制メール等により情報の多重化を図っているほか、広報車や市のHP、エリアメールなどにより、住民にできる限りの情報を伝達できるよう努めてきたい。
13	情報伝達	屋外の防災行政無線設備には非常用電源が備わっているのか。また、停電後どの程度稼働できるのか。また、モニタリングポストにも非常用電源が備わっているのか。	屋外の放送塔については非常用電源を備えており、主要電源喪失後、3日間程度稼働できる。モニタリングポストにも非常用電源を備えているが、正確な稼働時間は把握していない。
14	情報伝達	事故が起こった時、どのような経路で銚田市に連絡が入るのか、県から来るのか、原子力委員会から来るのか。どのような体制になっているのか教えてもらいたい。	情報については、国、県、市町村すべてが瞬時に情報を共有するシステムがある。警戒事態の段階から全ての関係市町村に連絡が入るので、市から指示伝達が遅れる事は無いと考える。
15	情報伝達	「事故が起こった」という判断は誰がするのか知りたい。	緊急時活動レベル（EAL）というのがあり、各事故に該当する事象が起こった場合、直ちに原子力事業所から国、県、各市町村に連絡が入るようになっている。それを踏まえて市町村が情報伝達を行う。
16	情報伝達	説明によると県からはテレビ、ラジオ、インターネットで伝える。銚田市からは防災行政無線、登録制メール、緊急速報メール、広報車、SNS、市ホームページで伝えるとあるが、本当にこれで自治体住民に徹底できるのか。また避難する30km地域と避難しない30km外の地域をどう区別するのも教えてもらいたい。	情報伝達については、非常に重要と考える。情報伝達手段は、防災行政無線をはじめとした各種手段を使用して伝達する。今後新たな伝達手段がないか検討する。また、地区毎の自主防災組織の組織化を促進しているところで、その辺を絡めながらしっかりと情報伝達体制を構築できればと思う。避難対象地区と避難対象地区外の避難の周知のあり方については、住民ご自身にも避難地域なのか避難地域外なのかを認識してもらう事が重要なので、このような説明会を通じて住民に認識してもらえよう今後とも説明していく。
17	防護措置	説明を聞いたがわからないことがたくさんあった。最も良いのは発電所で事故が発生しないことだが可能性はゼロではない。そんな中、もちろん事故の種類にもよるが、避難対応が必要となる全面緊急事態に至るまでの最短時間はどのように考えているのか。	説明資料で全面緊急事態に至った場合の防護措置を記載している。UPZ圏内は避難ではなくまずは屋内退避が基本。PAZ圏内は全面緊急事態になった段階で放射性物質の放出に備え全住民が避難する。
18	防護措置	屋内退避について、どれくらいの時間を屋内退避することを想定しているのか。屋内退避が長くなると食料などが心配。	屋内退避の解除のポイントは2つ。事故が進展して避難する場合と事故が収束した場合。実際には事故の状況等を踏まえて国等の指導を受けて解除となるため、期間については一概には申し上げられない。備蓄物資については市・県等が対応をすることになるが、現在の備蓄量で足りるのか等検討を進めていく必要があると認識をしている。

No.	カテゴリ	ご質問・ご意見等	説明会での回答
19	今後の課題	説明資料で今後の課題を挙げているが、解決に向けたスケジュール感は。	挙げている課題は銚田市独自では解決できないもの。現在、茨城県と関係市町村による勉強会で整理が進められている。現状、明確な時期を示すことはできないが、早い段階でクリアすべく対応していきたい。
20	安定ヨウ素剤	安定ヨウ素剤は十分に確保できているのか。	銚田市の避難対象住民約14,000人に対し、6万個以上の安定ヨウ素剤（丸剤）を備えている。安定ヨウ素剤は一人一つの服用が原則のため、十分な数を確保できている。
21	安定ヨウ素剤	安定ヨウ素剤について、これ自体に副作用はないかと思うが、他の薬と併用した場合に害は出ないのか。	安定ヨウ素剤自体に全く副作用がないわけではない。アレルギー反応などがある方もいる。配布する際に一斉に配るのではなく、あらかじめ配布対象者の体質を把握したりする取り組みが必要と考える。
22	避難退域時検査	避難退域時検査の要員や資機材、実施場所の確保は重要な問題であり、こうした点が確定していない中で避難を行うと言われても住民としては戸惑う。	避難退域時検査に関するシミュレーションについては、現在、茨城県が行っているところ。また、避難退域時検査場所の検討についても茨城県が行っており、ほぼ確定している状況。まだ公表できる段階にはないが、準備が整い次第公表すると聞いている。住民にお伝えできる段階になればしっかりとお伝えしたい。また、避難退域時検査に必要な資機材等についても茨城県が整理を進めているところ。
23	ガイドマップ	県で避難所マップというものを配布している。銚田市でもこのように保存できる形で配布してほしい。	保存できるようなガイドマップについては、今日配布した物の縦・横をそれぞれ2倍にしたものを対象地域の方には配布する。それ以外の方は市のホームページでも公表するので見ていただきたい。
24	その他	大洗にも原子力施設があるが、こちらが爆発することはないのか。大洗の原子力施設はここから近い。すぐに準備が必要。	今回の説明会は東海第二の避難計画に関するものであり、大洗の原子力施設に関する避難については、今回の広域避難計画とは別で避難誘導計画を策定することを考えている。説明できる段階になれば住民に説明していきたい。
25	その他	銚田市として廃校となる小学校の跡地利用について議論されているが、小学校は廃校にすることなく、避難所として残してほしい。	学校跡地利用計画については、住民の意見を聞くためパブリックコメントを行っているところ。現在は、廃校となった銚田地区の12学校の利用について区長から意見を聞いている状況。大洋地区、旭地区の統合小学校についてもまだ先の話ではあるが同様の方法で進めていきたいと思う。今回頂いた要望については、まずは要望として受け止めたいと思う。
26	その他	福島県の広野や大熊の放射線量が常磐高速道路に表示されるが、小学校にあるモニタリングポストの数値を表示することで、住民に恐怖ではなく安心感を与えてもらえればと思う。	モニタリングポスト値の可視化については、こうした意見があったことを茨城県にも伝え要望をしていきたいと思う。

※ご意見等については主だったものを抽出し、内容を要約して記載しております。
また、広域避難計画の内容に関するもの以外のご意見等は省略しております。

●アンケートによるご意見等

No.	ご意見等
1	色々な想定をして計画の準備をして下さい。
2	参加者が高齢の人ばかり。もっと若い人が話を聞くべき。
3	避難先や避難方法が分かり少し安心しました。
4	「説明会をやりました」という証拠づくりの印象。切実感が感じられなかった。
5	国・県からの要望での作成ではなく、銚田市としての見解をはっきり出してほしい。せつかく策定する計画も具体性に欠け、流れが分からなかった。
6	県の調整事項が多い。期限の提示がほしい。
7	具体的な指示等がなかった。
8	文字だけでは分かりづらいと感じます。

※ご意見等については主だったものを抽出し、内容を要約して記載しております。
また、広域避難計画の内容に関するもの以外のご意見等は省略しております。